

テーマ「小学校受験速報」

日時：12月4日（土）

場所：いりなか校

対象：小学生の保護者

◆講演1／責任者 森浩晃

一人ひとりに合わせた、伸びる教育を実践

楽しみながら、理解し表現できる力を育む

入試報告の前に、当塾における幼児教育の取り組みについてお話します。

私は、ご縁あってアメリカ、カナダ、メキシコの教育にも関わりましたが、それは非常にユニークで、ある少数精鋭の学校は、小学生から高校生までが一緒に学習し、小学生が微分積分、高校生が大学院レベルの数学をやっていました。日本では年長さんなら年長さん、小1なら小1の内容しかやらず、どんなに優秀なお子さんであっても、残念ながらそれを伸ばしていくシステムがありません。何年前かに東大でその試みが始まったと聞きますが、実績もこれからの展開もまだわからない状況です。そんな中、当塾では一人ひとりに合わせた教育、能力に応じてムリなく伸びて行くシステムを40年かけて作って参りました。

年中さん、年長さんの指導に幸子先生と私が直接関わるようになってからは、より成果をあげています。幼児教育に携わる者に必要とされる発達障害児教育の経験もある幸子先生は、勉強を遊びに変えられる技術をお持ちで、それを全スタッフが手本にして実践しています。だからここに通う子どもたちは、楽しみながら学んでいます。そして、感性の柔軟な幼児期に色々なことに興味を持ち、敏感に反応し、上手く表現できるようになります。通り一遍ではない質問が出た今回の南山小入試では、その力の差がかなり出ていました。

お家では、とにかくコミュニケーションをたくさん取ってください。でないと南山小学校の入試は勝ち抜けません。本当に自分で理解し、表現する力がないとできない問題が多くなっています。それを踏まえ、私たちも改めて気を引き締め、勉強が楽しくなる、遊びの一環として学びを楽しめる教育を追及していきたいと思えます。

◆講演2／責任者 森幸子

難易度が増した今年の南山小入試

初めに南山小受験の大まかなスケジュールです。1月末に学校説明会・公開日があります。昨年まで2月だったのが前倒しになっているので、入試日程も変わってくるかもしれません。南山小は願書を重要視しているため、私どもでは2月から願書講座をスタートしており、これは必ずご夫妻でご出席いただきます。その後の予定はまだ出ていないので、今年の場合をあげてみます。6月にまた学校説明会・公開日があり、10月中旬が願書締切り。そして受験番号が届き、一次試験は11月19、20日。応募者数の多い方が先で、土曜日が女子、日曜日が男子でした。二次の面接は12月3日が女子、4日が男子で、この合否が今週木曜に出てきます。今回、男子は102名、女子は150名弱が受けており、そのうち一次を通過した145名の中から合格するのは約90名です。

南山小から南山中高、大学進学へとつながりますが、今年の南山高校の名大医学部合格者は6名で、内訳は男子が現役4名、女子は現役1名と予備校生1名で2名です。逆ではないと思いますが、こうなっています。男子は簡単、女子は難しいというのは今やありません。それもあって、少し前は合格者の男女比は45名・45名だったのが、今は合計で約90名となっています。また参考までですが、新2年生の編入試験が1月14日にあり、ある筋の情報によると男子が5名で、女子は取りません。

今年、東海中や灘中などを受ける子とは別に、南山中高へ内部進学できなかった子が男子12名、女子10名、計22名います。これはかなり衝撃的でした。約90名中22名、3割弱ということで、小学校入学後もものすごい競争です。それを踏まえてでしょう、今回の入試問題はかつてない難しいものでした。ここを勝ち抜く教育は、一朝一夕でできるものではありません。子どもたちが本当にたくさんのお話しでき、質問にこれぐらいのスピードで答えることができ、合格を手にすることができます。

その際に弊害になるテレビは、出来るだけ見せないでいただきたいと思います。先日、新聞に載っていましたが、テレビは話すスピードが速いため、幼児期にそれを耳にしていることで言語を間違えて捉える子どもがたくさん出てきている、大人も含め、言質、言葉の意味がわからない人が多く、論理的な思考ができていないと言います。南山小の試験でも「お家でテレビを見せていますか?」「ゲームはさせていますか?」と聞かれます。それがあまり多いと、集中できないという理由で恐らく落とします。授業が聞けないからです。

少し遊ばせれば、その子がどういう子かはわかります。メッキはすぐにはがれます。教え過ぎて、答を暗記してしまっている子は伸びていきません。それをどう見極めるのか、学校側は必死です。

ご両親や家庭の状況も丸見えに

面接では、まず名前を言います。その次は生年月日ですが、保護者会でもずっと言ってきたのに、これがなかなか正しく言えません。また、和暦、西暦が答えられない。両方言えるようにしてくださいと何回も言いましたが、言えたのは2人だけでした。

説明会にはなるべくご夫妻でおいでください、ご家族でお話を聞いてくださいと言うのはここです。一番遅れるのはパパです。

昨日、あるお父様が慌てていらっしゃいました。他塾から来たその女の子は、ハイレベルな問題をやってきましたが、「どうしてこうなるの？」と聞かれると答えられませんでした。何とか柔らかくして面接に送り出したのですが、時間が不足、直し切ることはできませんでした。そして、面接でこんな質問がされました。「お父様やお母様のことで、すごいと思ったことはどんなことですか?」。固まってしまったその子を見た先生が「少し難しかったですね」と言い、ほっとしたのも束の間。「では、お父様から聞いたお話で何か記憶に残っているものはありますか?」と、もっと難しくなりました。頭が真っ白になられたそうです。その後、お父さんに「どういう風に育てられますか?」という質問が来たそうです。

他に「今日はどんな質問があると思いますか?」と質問されたお父さんもいらっしゃいました。「第一志望や娘の長所・短所ですかね…」と答えたのに対し、「定番の質問は出しませんよ」と言われたそうです。

少しお話ただけで、家族の状況もすぐにわかってしまいます。以前、お父さんがずっと仕事でアメリカにいらっしゃた方は、お子さんと交換日記をされていました。ご家庭の弱い所を言うただけであれば、私たちがこうしてくださいとアドバイスします。ただし、時間が1~2ヵ月しかないという場合は、やはり難しいです。

小学校で学ぶ準備ができていますか

今回の入試の内容をまとめてみました。1番目はペーパーテスト、2番目はコミュニケーションチェック、3番目は行動観察、4番目は生活です。

1対1の面接を予測して練習しましたが、やっぱり出ました。1部屋に生年月日順に10人が入り、1対1で質問されました。一次合格者の比率を月別に出した所、今までは平均数値で各月大体7割でしたが、今回は出来る順に取っています。6月10~9月20日の合格率は40%台でした。10名の中で暴れる子がいて、注意を受けたグループは全員落ちています。小学校受験は自分たちの力だけではないものが時として働きます。

消極的・過干渉はカットしようというのは、枠が決められていますから仕方がないです。わからない問題にぶつかっても「先生、わかりません。教えてください」と言わなくてはいけないのです。また、採点を見ていると、女子は加点法、男子は減点法のようなので、男子の子は発達が女の子より遅いので、そこも考慮しています。

＊

ペーパーテストは計7~8枚で、今まで以上に短い時間でやらなくてははいけませんでした。

たとえば、お話の記憶。女の子は「バラの季節はいつですか?」「七夕はいつですか?」というように、季節が関連するお話でした。男の子は「抹茶はどれですか」という質問があったそうです。だからいつも、昭和の古い生活をしてくださいと言っています。お茶を煎れて飲んでくださいと言っています。さらに焼き魚の問題。私どもの模試でも出しますが、左頭といったことも知っていないと難しいです。順列は男女出ましたが、単純なものではなく込み入っていました。量の問題は7問あり、早い子でも4問しか解けていません。早いだけでもいけませんが、スピードも必要です。南山小で、毎日3回、色々な問題を解く頑張りタイムが5分間だからです。スピードがない子は先生が苦勞し、また、ついていけなくなるので、理解もでき、スピードもある子がほしいと考えているんですね。さらに結び、車の車輪がいくつあるのかというのも、常識問題として出てきます。

その中にあったマジックトンネルという問題に似た問題を用意したので、30秒で解いてみてください。これぐらいのレベルの問題です。

なお、当塾ではどういう問題かのヒントは一切書きません。自分で問題を想像して解きなさいと言います。答が合っているだけでは〇はもらえません。なぜそうなるかを、出来た順に前に出て説明してもらうところまでやります。それによって能力が上がるので、中学入試の問題が解けるぐらいの年長さんが一杯出てきます。

*

コミュニケーションチェックは、先ほども言いましたが、10人を並べ、担任を持っている先生がその前に1人ずつ座りました。かなり願書を読み込んでいると感じました。女の子の方が難しいです。「前にいる先生の名前を聞いてください。その後自分の名前を言ってください」。そして「好きな果物は何ですか?」といった質問の答に「どうしてですか?」と理由を聞き、最後は「先生に3つ質問してください」と言われました。男の子は最初の条件が省かれ、「先生の名前は〇〇です。あなたのお名前は?」でした。男の子が最後に質問するのは1つで、その代り条件がついていました。「ブドウとリンゴとバナナのどれかを使って質問してください」。ヒアリングしていくと、落ちている子は「好きなフルーツは何ですか?」というように、そこを省いています。聞き取りが悪いと判断されています。

*

行動観察は、こう考えました。今、流行りの子ども向けの映画はない。そうすると音楽を出すとしたら定番。ドラえもんかアンパンマンであろう。ということでドラえもんやアンパンマンで踊ったり、ゲームしたりする練習をしました。やっぱりアンパンマンの曲でした。ドラえもんの絵の紐通しも練習しましたが、やはり出ました。

自由遊びのスタンプラリーは、トランポリン、大きなボール、ボールプール、楽器などで、それぞれの場所の受験番号の下にディズニーのスタンプが置いてあり、それを押す。全部回るのが基本ですが、ある子は「ボールプールの中に入ると、あの子が暴れそうだからやめておこう」と思ったそうです。これ、賢いんですね。男の子が喧嘩するような材料が一杯置いてあって、今の4年生の時にこの問題が出ましたが、実際、喧嘩になります。

そうすると落ちます。喧嘩している子がいても「僕はやめておきます」と言わないといけないんですね。

＊

生活は、男の子は和室で正座して行います。蝶結び、積み木、バケツで布巾を絞って、机を拭く。すすいで絞って干しに行く。準備としては、横に絞っている子は縦にする訓練をしています。また家庭科室では、これは男女両方ですが、10人ずつでじゃんけんをし、勝った子から椅子を持って、指定のことができるかという問題でした。

＊

全般的には、小学校1年生の準備ができているかを問われています。先生のお話をちゃんと聞けるか。自分勝手な行動をしないか。黒板に書いてあることをきちんとノートに取れるか。南山小学校ではノートの点検もあり、A～Dのランクがついて、これも内部推薦にも影響します。

内部に配られている文書によると、6年間で全教科のひとつでも△があった人は内部推薦が不可能になります。テストで1回でも80点以下があった場合も内部推薦は難しいと言われています。だから入れるだけではなく、入れた後も考えていかないとはいけません。現在4年の女の子のお母さんに聞きましたが、保護者会で教頭先生が「南山女子の過去問が7割取れない子は、内部推薦は難しい」と言われたそうです。7割というと外部受験の合格ライン。外からはのん気そうに見えますが、中もこれだけハードルが高いのです。

入試ではとにかくコミュニケーション量を見ます。「やりなさい」と無理強いするお家の子は排除していきます。一方通行に「ダメ」という子育てをしないようにしたいと思います。家族の中で一杯コミュニケーションを取り、子どもたちはお父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんの状況を見ているから、ゆとりを持った生活を送ってください。